



令和7年度 秋田県よろず支援拠点 地域支援機関連携フォーラム

生き残りを賭けた中小企業・小規模事業者への 地域支援機関連携による経営支援

令和7年10月9日、あきた芸術劇場ミルハス小ホールを会場に、「秋田県よろず支援拠点地域支援機関連携フォーラム」が開催された。金融機関や商工会など、県内の中小企業を支援している団体や自治体など総勢50名ほどが参加した。

第一部では「生き残りを賭けた中小企業・小規模事業者への地域支援機関連携による経営支援」と題し、株式会社アテナソリューションの代表取締役で、よろず支援拠点全国本部 中小企業アドバイザーを務める立石裕明氏による講演が行われ、第二部では秋田県よろず支援拠点のコーディネーター5名による活動事例の紹介が行われた。



講演

生き残りを賭けた中小企業・小規模事業者への地域支援機関連携による経営支援



よろず支援拠点本部
中小企業アドバイザー/
㈱アテナソリューション
代表取締役
立石 裕明 氏

自身の旅館事業承継の経験や、商工会青年部に身を置いた経験などから、「経営者の荷物を軽くする」という考え方のもと、「経営」ではなく「経営者」にスポットを当てて支援すべきと語った。小規模企業の多くは、地域のイベントに参加し、雇用を守り、地域を支えている。それだけでも素晴らしいが、そこに加えて「基礎資料を作り、数字を見る」という最低限の経営者リテラシーを育むことで、企業は大きく変わることができると述べた。

また、相談対応にあたっては、主語を「自分」ではなく「相手」にすることで気持ちに寄り添うこと、否定ではなく「もったいない」という言葉で経営者を鼓舞し支援することなど、対応のポイントについて自身の経験談を交えながら解説した。

講演の最後には、「皆さんの支援のおかげで経営者は成り立っている。支援機関が連携し、互いを理解し合うことが、今後も多くの経営者を救う」と力強く語った。



秋田県よろず支援拠点 活動事例紹介

発表内容はこちらからご覧ください▶



第二部では、秋田県よろず支援拠点から5名のコーディネーターが登場し、県内企業を支援した成果について発表した。松浦忠雄チーフコーディネーターは「今後も関係機関の皆様と連携して、もっと良い支援成果を発表できるようにしていきたい」と締めくくった。

①金融機関の連携事例



松浦 忠雄
チーフコーディネーター

②集客支援事例



杉田 和可子
コーディネーター

③経営改善事例



佐々木 雅樹
コーディネーター

④自治体との連携事例



中野 智恵
コーディネーター

⑤金融機関との取組事例



佐藤 茂樹
コーディネーター